令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校高山日赤分校

学校番号	１１９Ｂ

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる　～気づく、考える、動く～

評価する領域・分野	キャリア教育
現状及びアンケートの結果分析等	当校に在籍する児童生徒の多くが、卒業後は生活介護事業所等を利用しながら個のニーズに応じた生活を送ることを踏まえると、早い段階から卒業後の生活について見通しをもち、考えていく必要がある。アンケートでは一人一人の特性や願いを踏まえた進路支援について改善が見られたが、保護者への情報提供や関係機関との情報共有についてまだ十分ではない結果となっている。キャリア教育は進路支援だけでなく、小学部段階から系統性をもち、教師自身も意識をしながら計画的に取り組んでいくことが必要であり、保護者や関係機関と情報共有しながら進めていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・高等部の取組やキャリアアップウィーク（校内作業実習、事業所見学、現場実習）の充実を図る。 ・高等部の取組について小中学部の児童生徒や保護者、教師、関係機関への周知を図る。 ・保護者や教職員が卒業後への見通しがもてるよう、研修機会を設ける。
重点目標を達成するための校内組織体制	・高等部の作業の時間やキャリアアップウィークの実施と小中学部、保護者、関係機関と情報共有する機会を設ける。 ・生活進路支援部による保護者や教職員への情報提供や、研修会を実施する。
目標の達成に必要な具体的取組	・高等部の作業の時間の取組や作業製品を地域に向け発信する。 ・卒業後を見据えた高等部キャリアアップウィークの取組を充実させ、関係機関、保護者との連携を図る。 ・小中学部に向け、高等部作業製品や紙漉き作業を紹介する機会をもつ。 ・保護者に向け、進路通信の発行や高等部の取組発表会等を行う。 ・教職員に向けた研修会を実施し、作成したキャリア教育段階表を周知する。 ・ＰＴＡと連携した保護者研修会を実施する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・卒業後の生活をイメージし、日々の支援につなげたり、保護者と懇談したりすることができたか。 ・高等部の作業の時間やキャリアアップウィークの取組について、具体的に知り、理解を深めることができたか。
取組状況・実践内容等	・関係機関向けの学校見学会を実施し、学校の概要説明や授業参観により、児童生徒の普段の学校生活の様子や高等部の取組を知っていただいた。 ・学校周知の活動（写真展や寄付等のお礼）に作業製品を活用できた。 ・作業製品を市役所の方から注文をとり届けることができた。 ・卒業後を見据え、保護者の希望を踏まえた現場実習や施設見学ができ、関係機関を交えた懇談会を実施できた。 ・当校の進路支援について進路通信で保護者に向け発信できた。 ・高等部作業製品のチケット交換会と紙漉き作業体験会を小中学部の児童生徒に向けて実施し、取組を紹介できた。 ・キャリアアップウィークの取組を、ＰＴＡの保護者研修会の際に生徒自身が発表することができた。 ・職員研修では、卒業までと卒業後の福祉サービスについて、外部講師を招

	いて学ぶことができた。 ・ＰＴＡ進路研修会として、「卒業後の福祉サービスと制度について」の外部講師による研修会と座談会形式での相談会を実施できた。

評価の視点	評価
① キャリア教育について理解を深め､保護者と連携して取り組むことができたか。 ② 生徒や保護者は、卒業後の生活について見通しをもつことができたか。	A (B) C D (A) B C D

成果・課題	総合評価
○関係機関に向けた学校見学会により、生徒理解につなげることができた。 ○研修会等により、保護者や教職員は卒業後の生活をイメージすることができた。また、高等部生徒については、事業所での実習や見学、関係者を交えた懇談会等により、個に応じた進路を考えることができた。 ○小・中学部に向けた作業体験会や保護者に向けたキャリアアップウイーク発表会等により、高等部の取組の周知を図ることができた。 ▲キャリア教育は小学部段階から学校全体で進められるため、キャリア教育段階表を作成したが、職員に向けた十分な周知や活用ができなかった。 ▲児童生徒のニーズや進路支援が多様化しており、保護者、関係機関ときめ細かい連携をし、一人一人に応じた適切な進路支援を行っていく必要がある。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	・キャリア教育の発達段階表を見直し（準ずる教育についても作成する）、活用方法について周知するとともに、小学部段階から卒業後をみすえた支援を継続できるようにする。 ・関係機関と連携した学校見学会の継続と、本校、ネットワーク HIDA と連携した事業所説明会を実施し、保護者を含めて情報共有する機会を設ける。 ・生活進路支援部を中心に、ＰＴＡや教職員に向け研修会等を実施し、理解を深め、キャリア教育を推進する。 ・小６、中３、高等部等、必要に応じて進路指導主事が懇談会に参加し、必要に応じた相談に応じる。 ・高等部の実態を踏まえて、キャリアアップウイークの取組を見直し、余暇活動につながる活動も検討する。

学校関係者評価　（令和５年１２月１日実施）

意見・要望・評価等

・キャリア教育は乳幼児期からはじまっており、いろいろな経験を積むことが大切である。基本的な生活習慣を身に付けられるように、小さい頃から取り組めるとよい。
・小さい頃からの丁寧な積み重ねや家庭、施設、学校との連携を大切にしていきたい。
・キャリア教育は高山市としても重視している。地域生活でできることを、市としても考えたい。
・進路支援において、福祉事業所の方から説明を聞く機会を設けてはどうか。
・就労を継続するためには、家族の支援が必要である。学校の取組や生徒の様子、課題等を家庭と共有するには、生徒自身が自分で伝えられる力もつけていく必要がある。
・卒業後の生徒を受け入れる立場として、その生徒しか見ていなかったが、委員になって小学部から高等部生徒まで知ることができた。児童生徒ができることのアピールは大切であり、適性への配慮も必要である。実習等を通して生徒が様々な体験ができる機会を増やせるとよい。
・学校に就労先を探したり、地域とのつながりを担当したりする専門の教職員を雇うことができるとよい。手伝いたい気持ちはあっても仕事としてでないとできない人もいるだろう。
・生徒の実習や就労先を探す際には、事業所からも情報を発信していきたい。
・障がい者雇用を促進していくために、生徒ができることをアピールすることは大切である。また、雇用のための助成金等の周知をしていきたい。